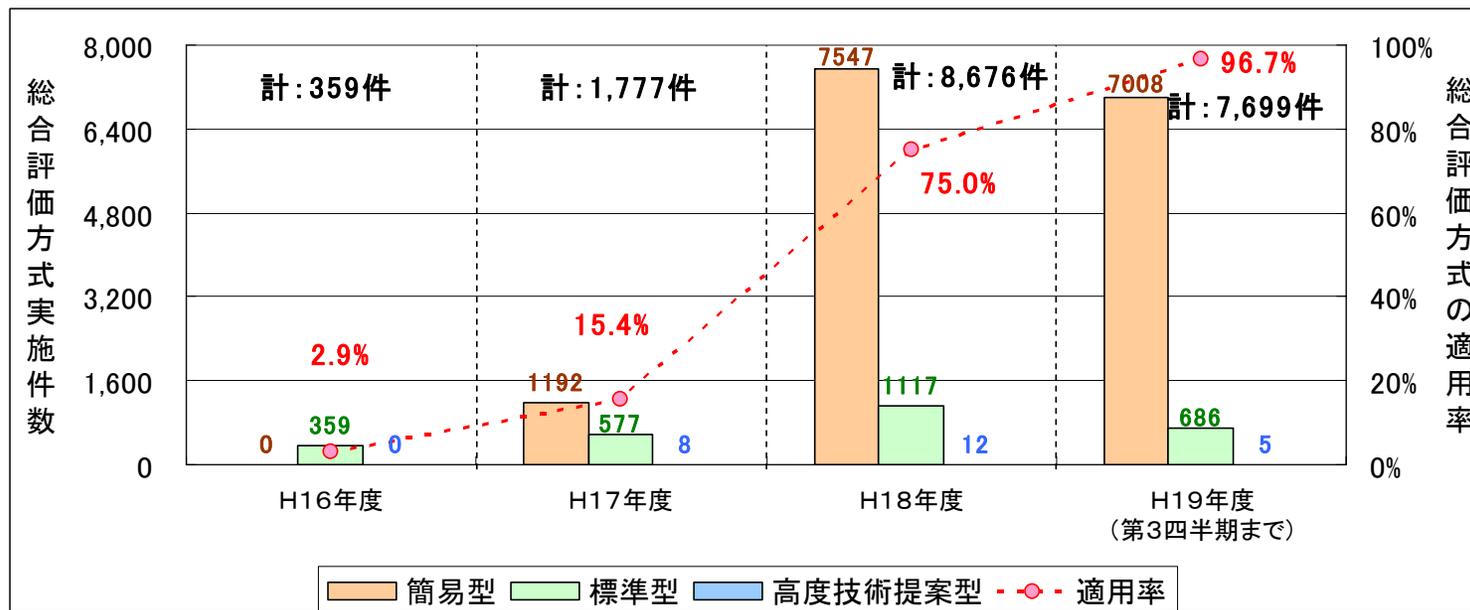


公共工事における総合評価方式 活用検討委員会の報告

総合評価方式の適用拡大

- 国土交通省ではH17年度以降、総合評価方式の適用を拡大しており、**H19年度の適用率は97%**に達している。そのうち9割以上を簡易型が占めている。
- 公共工事における総合評価方式の適用拡大に伴い、価格と品質が総合的に優れた者が選定されている一方で、**入札・契約実務に係わる様々な問題が認識**されてきている。



年度別・タイプ別の実施件数

注1) 8地方整備局における実施件数。

注2) 適用率は随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価方式実施件数の割合。

注3) H19年度は速報値。

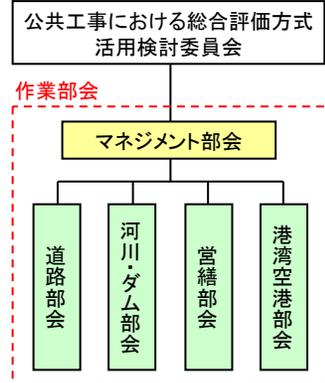
総合評価方式の運用に係る問題認識

区分	問題認識	問題認識の具体的な内容の例
技術評価	タイプ選定	① タイプ選定が適切になされているか ● 工事規模(金額)により機械的にタイプを選定 していないか
	評価項目の設定	② 技術提案(施工計画)の課題設定が適切か ● 工事特性を踏まえて 本質的な課題を設定 しているか ● 簡易型にもかかわらず標準型における技術提案と同様の課題を設定していないか
		③ 評価項目・配点が適切に設定されているか ● 地整間、事務所間で評価項目・配点に極端なバラツキはないか ● 小規模で難易度の低い工事における評価項目について検討が必要ではないか
	評価方法	④ 評価基準が明確になっているか ● 地整間、事務所間で 評価基準・評価方法に極端なバラツキ はないか
		⑤ 技術提案(施工計画)の評価が適切か ● 相対評価により提案内容に過大な評価点を与えていないか(安い技術を高く買っていないか) ● 要求レベル(上限)を示さずに必要以上の提案に過大な評価点を与えていないか(技術ダンピング となっていないか)
	総合評価の方法	⑥ 価格と技術のバランスが適切に設定されているか ● 調達する工事に対して、価格と技術のバランスが適切に設定されているか
	評価結果の公表	⑦ 技術評価の内容をどこまで公開すべきか ● 技術提案の評価結果について必要な情報を公表 しているか
	効果の検証	⑧ 総合評価方式の効果が検証されているか ● 総合評価方式の導入効果を対外的に説明できるか ● 技術提案の履行を適切に確認し、結果を工事成績に反映できているか
手続	① 手続に要する時間や負担を軽減できないか ● 技術提案の作成・審査等、 発注者・応札者双方の手続に係る負担が増大し、手続が長期化	
	② 技術提案に係る費用の負担を軽減できないか ● 技術提案の作成に要する費用が負担となっていないか(特に高度技術提案型)	
	③ 高度技術提案型が効率的に運用されているか ● 手続に時間や手間を要するため、高度技術提案型の活用が進んでいないのではないか	

作業部会における検討の成果

○「公共工事における総合評価方式活用検討委員会」では今年度、入札・契約実務に携わる者から構成される作業部会(マネジメント部会及び道路、河川・ダム、営繕、港湾空港の各作業部会)を設置。

○「総合評価方式の改善に向けて(案)～より適切な運用に向けた課題設定・評価の考え方～」をとりまとめた。



区分	問題認識	作業部会における検討の成果 (斜体は継続検討事項)
技術評価	タイプ選定	① タイプ選定が適切になされているか ●技術的難易度評価に基づくタイプ選定の考え方
	評価項目の設定	② 技術提案(施工計画)の課題設定が適切か ●工事特性を踏まえた課題設定の考え方
		③ 評価項目・配点が適切に設定されているか ・代表的な工種における工事技術的難易度を活用した課題設定の考え方と設定例
	評価方法	④ 評価基準が明確になっているか ●タイプに応じた適切な評価の考え方
		⑤ 技術提案(施工計画)の評価が適切か ・代表的な工種における評価基準と評価方法の考え方と評価例 ・技術提案に係る上限明示の例
	総合評価の方法	⑥ 価格と技術のバランスが適切に設定されているか ●加算方式と除算方式の使い分け
	評価結果の公表	⑦ 技術評価の内容をどこまで公開すべきか ●評価結果の公表内容と公表方法の統一化
効果の検証	⑧ 総合評価方式の効果が検証されているか ●具体的な事例による効果の検証	
手続	① 手続に要する時間や負担を軽減できないか ●手続日数の短縮 ●事後審査型方式や二段階選抜方式の導入	
	② 技術提案に係る費用の負担を軽減できないか ●高度技術提案型における技術提案作成費用の負担	
	③ 高度技術提案型が効率的に運用されているか ●技術対話を省略可能とすることによる手続日数の短縮	

〔参考〕工事特性を踏まえた課題設定の考え方

- [課題] ○ 工事特性を踏まえて本質的な課題を設定しているか。
- [対応] ○ **標準型**では工事技術的難易度評価の結果をもとに、**技術提案により更なる品質向上を図る必要のある事項について特定の課題を設定し、技術提案を求める。**
- 河川では「築堤・護岸」と「樋門・樋管」、道路では「アスファルト舗装」と「橋梁下部」の4工種を対象に、**工事特性を踏まえた具体的な課題設定の考え方を整理した。**
- [課題] ○ 簡易型にもかかわらず標準型における技術提案と同様の課題を設定していないか。
- [対応] ○ **簡易型**では簡易な施工計画として特定課題を設定せず、発注者が示す仕様に基づき施工する上で**どういう点に配慮して工事を施工するか**(施工上配慮すべき事項)について求めることを基本とする。

① 工事技術的難易度評価の実施(工事特性の把握)



② 課題事例シートを活用した課題設定

大項目	評価項目		評価内容
	評価	小項目	
1. 構造物条件	●	①・・・
		②・・・	
		③・・・	
2. 技術特性	●	①・・・
		②・・・	
		③・・・	
3. 自然条件	●	①・・・
		②・・・	
		③・・・	
4. 社会条件	●	①・・・
		②・・・	
		③・・・	
5. マネジメント特性	●	①・・・
		②・・・	
		③・・・	
6. 特別考慮要因		③・・・	

(1) 主たる構造物に求められる機能・性能等の事項

大項目	工事技術的難易度			5 マネジメント特性			
	評価	小項目	評価	評価対象となる工事特性事項	④工程管理	⑤品質管理	⑥安全管理
1 構造物条件	●	①・・・				
		②・・・					
		③・・・					
2 技術特性	●	①・・・				
		②・・・					
		③・・・					

今回作成した「工種ごとシート」を活用
 河川：築堤・護岸、樋門・樋管
 道路：アスファルト舗装、橋梁下部

(2) 作業条件等から施工に求められる事項

大項目	工事技術的難易度			5 マネジメント特性			
	評価	小項目	評価	評価対象となる工事特性事項	④工程管理	⑤品質管理	⑥安全管理
3 自然条件	●	①・・・				
		②・・・					
		③・・・					
4 社会条件	●	①・・・				
		②・・・					
		③・・・					
5 マネジメント	●	①・・・				
		②・・・					
		③・・・					

今回作成した「工種共通シート」を活用

[参考] 課題設定イメージ例：樋門・樋管工事 (1/2)

[当該工事の特性]

- 工種: 樋門・樋管工事
- 規模: 3億円程度
- 特徴:

- 規模の大きい(幅2.2m×高さ2.4m, 2連, 長さ22.5m)樋門・樋管工事
- 周辺がシジミ漁の適地により、水質汚濁防止対策が必要

構造物条件及び技術特性の評価結果から、主たる構造物に求められる機能・性能等の事項を、工種ごとの課題事例シートより抽出する。

[工事技術的難易度評価の実施イメージ]

発注時工事難易度評価表 平成〇年〇月〇日作成

入札契約方式	一般競争入札(総合評価落札方式)		予定契約金額(ラウク)	300,000,000 (一般土木工事 自ラウク)	
工事名	平成〇年度〇〇樋門・樋管工事	工期(予定・最終)	平成〇年〇月 ~ 平成〇年〇月		
負担行為件名コード		CORINS登録番号		工事種別コード	
請負業者名					
大項目	評価	評価項目			評価内容
		小項目	評価		
1. 構造物条件	B	①規模	B	内空幅2.2m×高さ2.4m, 2連、内空断面積10m2以上、管体長22.5m	
		②形状	C	一般的な樋門・樋管形状	
		③その他	-	-	
2. 技術特性	C	①工法等	C	一般的な地盤改良を実施	
		②その他	-	-	
		③その他	-	-	
3. 自然条件	C	①湧水・地下水	-	-	
		②軟弱地盤	C	軟弱支持層に対する地盤改良	
		③作業用道路・ヤード	C	河川内における施工、堤防天端における作業の制約	
		④気象・海象	C	降雨・出水時の対応	
		⑤その他	-	-	
4. 社会条件	B	①地中障害物	-	-	
		②近接施工	-	-	
		③騒音・振動	-	-	
		④水質汚濁	B	周辺がシジミ漁の適地により、水質汚濁防止対策が必要	
5. マネジメント特性	A	⑤作業用道路・ヤード	C	生活道路等の利用に係る制約	
		⑥現道作業	C	堤防天端の作業用道路における工事用車両の出入り有り	
		⑦その他	-	-	
		①地区調整	C	工事用車両・交通誘導員の配置計画等の調整有り	
		②住民対応	-	-	
6. 特別考慮要因	-	③関係機関対応	-	-	
		④工程管理	C	工事用道路、搬入・搬出に係る工程調整	
		⑤品質管理	A	樋門及び樋管のコンクリートひび割れ抑制対策が重要	
		⑥安全管理	C	堤防天端における一般交通の開放における安全管理が必要	
		⑦その他	-	-	

自然条件、社会条件及びマネジメント特性等の評価結果から、作業条件等から施工に求められる事項を、工種共通の課題事例シートより抽出する。

課題設定イメージ(2)

[課題事例シート(工種ごと: 樋門・樋管工事)を活用した課題設定イメージ(1)]

大項目	工事技術的難易度					5 マネジメント特性						その他												
	評価	小項目	評価	評価対象事項	評価対象となる工事特性事項	評価	④ 工程管理		⑤ 品質管理		⑥ 安全管理		評価	C										
							当該工事の具体的な特性	技術提案(施工計画)における課題設定例	当該工事の具体的な特性	技術提案(施工計画)における課題設定例	当該工事の具体的な特性	技術提案(施工計画)における課題設定例												
1. 構造物条件	B	①規模	B	対象構造物の長さ(土盛り・面積、施工深度等の規模)	1 掘削深さ	□	樋門・樋管工事の規模(掘削深さ、内空断面積、管体の長さ)が施工時期、コンクリートの品質管理手法、養生方法、施工方法等に影響を及ぼす場合、施工上の制約条件等を明示の上、品質向上等に着眼した課題を設定する。	当該工事の具体的な特性	技術提案(施工計画)における課題設定例	当該工事の具体的な特性	技術提案(施工計画)における課題設定例	当該工事の具体的な特性	技術提案(施工計画)における課題設定例	当該工事の具体的な特性	技術提案(施工計画)における課題設定例									
					2 内空断面積	■										B	深さ5m以上の掘削	掘削における掘削法面の安定性確保に関する施工方法	樋門本体内空(2.2m×2.4m, 2連)	樋門本体工のコンクリートひび割れ抑制対策				
					3 管体の長さ	■										B	管体本体(0m×0m)	コンクリートの品質向上対策の施工計画	管体本体長(22.5m, 2連)	樋管コンクリートのクラック抑制対策検討				
	C	②形状	C	対象構造物の形状の複雑さ(土盛り・面積、施工深度等の規模)	5 断面形状	■										C	内空断面積(0m2)	本体コンクリートのひび割れ抑制対策	コンクリートの品質・耐久性向上策					
					6 継ぎ手構造・箇所	□																		
					11 地盤改良に係る工法	■										C	連数	本体コンクリートひび割れ抑制対策						
2. 技術特性	C	①工法等	C	工法、使用機械、使用材料等	12 管体の特殊材料の使用	□		テノロウム工法最大深度(0m)	地盤改良工における品質と出形確保に係る施工計画															
								素構造樋管	素構造樋管における品質管理															

技術的難易度評価においてA評価の事項を課題として設定

工事技術的難易度評価表より記入

工事技術的難易度評価表より記入

〔参考〕 課題設定イメージ例：樋門・樋管工事 (2/2)

〔課題事例シート(河川・道路共通)を活用した課題設定イメージ (2)〕

大項目	工事技術的難易度					課題設定のポイント	5 マネジメント特性						その他					
	評価	小項目	評価	評価対象となる工事特性事項	評価		④ 工程管理		⑤ 品質管理		⑥ 安全管理		評価	C				
							当該工事の具体的な特性	技術提案(施工計画)における課題設定例	当該工事の具体的な特性	技術提案(施工計画)における課題設定例	当該工事の具体的な特性	技術提案(施工計画)における課題設定例			当該工事の具体的な特性	技術提案(施工計画)における課題設定例		
3 自然条件	C	②軟弱地盤	C	支持地盤の状況	5	軟弱地盤、不均一地盤、軟弱層	■	C	軟弱地盤が目的物、施工方法、地盤改良方法、支持力確保、品質管理等に影響を与える場合、支持地盤の条件等を明示の上、品質向上等に着眼した課題を設定する。	軟弱地盤対策の施工	地盤改良工法における均質性確保のための施工管理及び品質管理方法			指定地質に適合しない中層が存在する	止水欠陥の施工精度確保に関する施工方法及び施工管理方法			
					6	シキ、玉石、転石等	□							地中に玉石が想定される施工箇所	杭施工における玉石対策における技術的所見			
		③作業用道路・ヤード	C	河川内、海城、急峻な地形等の、工事用道路・作業スペース等の制約	8	河川内、海城での施工	■	C		海上部での施工	コンクリート構造物の品質管理							
					9	足場・作業スペースの地形的な制約	■	C	河川内、海城または急峻な地形等により作業用道路・ヤード等の制約がある場合、施工方法、設計、資材運搬・仮置場の制約条件等を明示の上、品質向上や安全性向上等に着眼した課題を設定する。			狭峻な地形により作業スペースに制約	狭峻な施工ヤードにおける安全性の向上に関する施工方法					
	10				資材運搬、仮置場の地形的な制約	□							河川公園内での施工	資材貯蔵時、河川公園利用者に対する安全対策				
	④気象・海象	C	雨・雪・風・雷・気温・波浪等の影響	13	降雨・出水時の対応	■	C	気象・海象作用が、施工計画や施工方法、工程に与える影響を考慮した工事工程	被災箇所の暫定施工を考慮した工事工程	出水期までの暫定施工の施工方法						降雨装置の取替により一時撤去中に対応が伴う施工	雨閉装置取替中の出水時緊急対策	
				15	気温の影響	□						寒中コンクリートの施工	樋門面コンクリート施工時におけるコンクリートの品質確保に係る施工計画					
													暑中コンクリートの施工	暑中コンクリートの施工管理及び品質・出来形管理				
	4 社会条件	B	④水質汚濁	B	周辺水域環境に対する水質汚濁の配慮	32	漁協との調整による汚濁防止	■	B	施工に伴い周辺水域環境(漁協・水利施設)その他近接する都市地帯の環境に水質汚濁等の影響を与える場合、周辺水域環境の条件等を明示の上、環境への配慮(河川管理、水質管理業者及び漁協等)との調整が必要な場合は、調整方法の検討等を踏むに着眼した課題を設定する。						締約の時期および産卵期の時期	工事に伴う排水の浮遊物質(SS)の低減	
						33	水利施設との調整による汚濁防止	□										
		⑤作業用道路・ヤード	C	生活道路を利用している資材搬入等の工事用道路の制約、路面覆工下、高架下等の作業スペースの制約	35	生活道路等を利用する制約	■	C	作業用道路・ヤードが施工方法、施工計画、他工事との調整等に影響を与える場合、他工事との制約や作業員への安全対策、第3者等への影響、または他工事との調整等の条件等を明示の上、工程管理等に着眼した課題を設定する。	高架橋下の限られたスペース	限られたスペース中での効率的な施工手順の立案			特殊処理時に現道遮断が必要	遮断時の安全対策、沿道環境対策			
36					現道・路面覆工下、高架下等の作業スペースの制約	□							高架下の狭い作業スペースでの施工	作業箇所上空の高層施設に対する安全性向上のための施工方法及び安全管理方法				
⑥現道作業		C	現道上での交通規制を伴う作業	37	他工事との近接による制約	□					他工事との近接による制約	近接した他工事と共有する工事用道路、作業ヤード確保に関する、工程管理及び施工方法						
				39	道路切り替え・切り直し	□												
5 環境特性	A	①他工区調整	C	隣接工区との調整	46	工事用道路、搬入・搬出に係る調整	■	C	隣接工区との調整が連続時期、連続経路、連続距離の管理、流用による調整、安全管理等に与える影響、他工事との制約条件等を明示の上、工程管理等に着眼した課題を設定する。	隣接工事との搬入・搬出の調整	隣接工事との連携を考慮した工程管理、施工効率の向上							
					47	他工事との残土の相互調整	□											

技術的難易度評価においてB評価の事項を課題として設定

周辺が、沼澤の地帯により水質汚濁防止が必要
 波瀾工事直下流に水利施設がある
 掘削時に水質汚濁防止が必要
 波瀾による濁水が影響しないよう防止施設の設置
 掘削時における濁水防止対策

工事技術的難易度評価表より記入

作業条件等から施工に当たり求められる事項

工事技術的難易度評価表より記入

- ・技術的に重要な小項目にA評価
- ・複数の課題を設定

標準型 (I型)

とりまとめのポイント

競争参加資格審査の技術評価点数に加点

現状の課題

簡易型	金額によるタイプ選定	標準型	高度技術提案型
<p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○簡易型にもかかわらず、標準案以上の優れた提案となっているかどうかを評価している例がある。 	<p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○簡易型における施工上の課題と標準型における技術提案の課題との境界が曖昧となっている。 ○技術的難易度評価の低い事項が技術提案(施工計画)の課題として設定される例が見られる。 	<p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○標準案に基づく予定価格により、競争参加者によりよい技術提案を提出するインセンティブが働きにくい。 ○技術提案の上限を明示しない場合には技術ダンピングを助長するとの指摘もある。 	<p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発注者側の技術審査や競争参加者側の技術提案作成等による双方の負担の増加、手続期間の長期化により、活用が進んでいない。
<p>例: 当該工事の特性が一般的であるため、無理な課題を設定</p>	<p>例: 技術提案を求めたいが手続期間を短縮するため、簡易型を選定</p>	<p>例: 技術的な課題が特にないが、工事規模(予定価格)等により標準型を選定</p>	<p>例: 民間の高度な技術提案を求める工事において、手続期間を短縮するために標準型を選定</p>
			<p>Ⅲ型 Ⅱ型 Ⅰ型</p>



見直し案

- 技術的難易度に基づいた課題設定
- 条件明示の徹底
- タイプに応じた適切な評価
- 予定価格
- 手続日数の短縮

簡易型	技術的難易度に基づくタイプ選定	標準型	高度技術提案型
<p>簡易な施工計画として特定の課題を設定せず、施工上配慮すべき事項を求める(A4用紙1枚以内を基本とする)。</p>	<p>技術的難易度評価に基づき、特定の課題を設定する(1~2課題とし、A4用紙各1枚以内を基本とする)。</p>	<p>技術的難易度評価に基づき、複数の課題あるいは難易度の高い技術が必要な課題を設定する。</p>	<p>特に高度な技術が必要な課題を設定する。</p>
<p>工事の確実な施工に資する施工計画を評価</p>	<p>技術提案の上限(値)の明示を徹底</p>		<p>特に高度な技術が必要な課題を設定する。</p>
<p>適切かどうかの評価(可か不可か)を基本</p>	<p>工事の品質向上に資する技術提案を評価</p>		<p>施工方法に加え、工事目的物そのものに係る提案を評価(設計・施工一括発注※)</p>
<p>設計図書に定める標準案に基づき予定価格を作成</p>			<p>技術提案に基づき予定価格を作成</p>
<p>現行の簡易型を踏襲</p>	<p>現行の標準型を踏襲</p>	<p>現行の手続を簡素化(技術対話を省略可)</p>	
	<p>Ⅱ型</p>	<p>Ⅰ型</p>	<p>Ⅲ型 Ⅱ型 Ⅰ型</p>

競争参加資格審査の技術評価点数に加点

※通常の構造・工法では工期等の制約条件を満足した工事が実施できない場合にⅠ型、想定される有力な構造形式や工法が複数存在し、幅広く技術提案を求める場合にⅡ型を適用する。

(1) フォローアップの継続

今年度とりまとめた「総合評価方式の改善に向けて」に基づく実施状況を継続的にフォローアップし更なる手法の改善等について検討を行う。

(2) 継続して検討する事項

○総合評価方式の今後のあり方

- ・加算方式と除算方式の考え方と適用範囲の整理
- ・施工体制確認型の導入効果の検証
- ・地方公共団体等での運用事例の分析

○手続の効率化

- ・事後審査型入札方式の試行に向けた検討
- ・二段階選抜方式の試行に向けた検討
- ・高度技術提案型における技術提案作成費用の支払いに向けた検討

○総合評価方式の効果の検証